

【全体概要】

県内のイチジクの圃場の多くでリン酸・カリが過剰となっている。そこで、肥料成分を見直すことによりリン酸・カリ成分で30%以上の削減、施肥量も40kg/10a削減ができる基肥用の新規配合肥料の現地適応性を確認する。さらに追肥の削減も合わせた施肥体系を確立し、施肥の省力化、生産資材コストの低減につなげ県内イチジク産地への導入を進めていく。

新品種・新技術等の概要

表 L型配合肥料（商品名：いちじく有機配合822）

容量 kg	成分(%)						
	N	P	K	Mg	Mn	B	
慣行 20	6	5	5	2	0.2	0.1	
試験 20	8	2	2	2	0.2	0.1	
慣行との差	2	-3	-3	0	0	0	

基肥施用量：25%減
基肥価格：15%減
(10a当たり)

表 試験区及び慣行区の施肥体系(一例)

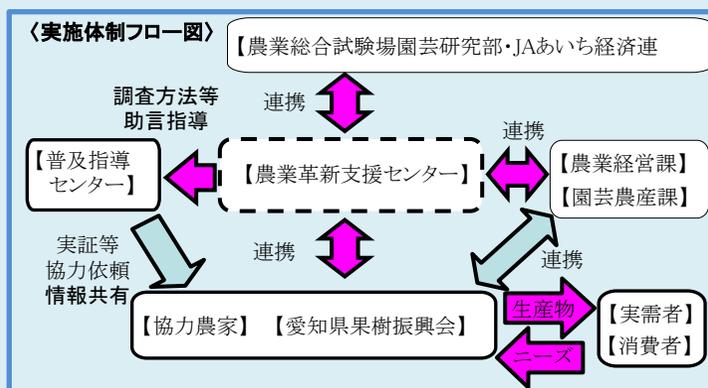
月	期	肥料	成分		試験区 (N-P-K) (kg/10a)	慣行区 (N-P-K) (kg/10a)		
			施用量 (kg/10a)	成分 (N-P-K) (kg/10a)				
3月	上旬	基肥	L型いちじく有機配合 いちじく有機配合	8-2-2 6-5-5	120 160	9.6-2.4-2.4 9.6-8.0-8.0	9.6-2.4-2.4 ×	×
5月	下旬	追肥①	粒状固形30号	10-10-10	20	2.0-2.0-2.0	2.0-2.0-2.0	2.0-2.0-2.0
6月	中旬	追肥②	硫酸加里	0-0-50	10	0-0-5.0	×	0.0-0.0-5.0
7月	上旬	追肥③	てまなしくん	10-8-10	80	8.0-6.4-8.0	8.0-6.4-8.0	8.0-6.4-8.0
9月	下旬	追肥④	ダブルクイック660	16-6-10	5	0.8-0.3-0.5	0.8-0.3-0.5	0.8-0.3-0.5
10月	下旬	礼肥	硫酸入り複合肥料S604	16-10-14	10	1.6-1.0-1.4	1.6-1.0-1.4	1.6-1.0-1.4
			計			22.0-12.1-14.3	22.0-17.7-24.9	

年間の減肥率
リン酸：31.6%、カリ：42.6%

主な取組内容

- 県内8カ所の実証ほにおける経時的な土壌分析・葉内成分の結果の検証
 - 土壌中のリン酸・カリに大きな変化は無かった。
 - 葉のリン・カリウム含有率は差は無かった。
- 実証ほにおける果実品質、樹勢への影響
 - 果実品質や樹勢に悪影響は無かった。
- 実証ほの試験結果について検討会議を開催。
- 導入に向けた手引きを作成。

実施体制図



農業革新支援センターが中心となり、農業総合試験場・JAあいち経済連と協力し、生産者・実需者・消費者との連携を図りながら事業の調整・進行管理を行う。

実績と今後の対応

- 調査結果をもとに、慣行の基肥用配合肥料の利用者が多い西三河地域を中心に導入推進した結果、慣行の基肥用配合肥料(約1,600袋/H29年)からすべてL型配合肥料(約850袋/R5年)に置き換わった。
- 西三河以外で導入の意向がある地域においては、調査の継続支援(土壌分析・葉内成分調査及び生育・果実品質調査)。
- さらなる省力化に向けて、肥効調節型肥料を活用した肥培管理の検討と導入推進。